



「うおおおおおおおッッ……」

「よっくらせーとー」

「へへへ、お姉ちゃんお人よしだね。」

「んっ、結構締まるな……」

「くく、やっぱりでかだな……」

「ちよつっ…えっ…のイヤ…何を…」

ジッ

パッ

ぱん

「何ってセックスに決まってるじゃん」

「あーオレも早く挿れて…
ま〇こは「発交代だかな」

ぱん



「あ、あなたたち……あうっ！
もしかして最初から私を狙って……」

弁
ピル
ピル

弁

弁

「そうだよ？」

「しかしここまで上手く行くとはな
お姉ちゃん、ありがとね」

「ぎゃはははは！」

「こんな場所に一般人が迷い込む訳ないっての！
バカだなあ」





「……」

「いやーほんと見事に騙されちゃって……」

かわいらしいお姉ちゃんにプレゼントをあげるよ

ほれ」

ぬいっ♡

ぬいっ♡

しゅっ

「えーっ、熱いっ…これって…まひか…」

びんびん♡

びんびん♡

たん♡

たん♡

「んだよ、精子かけてやったのに反応薄いな
おい、中に出してやれよ」

「おーけー、んじやお姉ちゃん
ぶっっ、ぶっ…膣内射精ぎめっからねっ」





「おふッ...! はーえろま○こ堪能した〜」

「嘘...! ああああッ!?
だめ! だめよ! 赤ちゃん出来ちゃう!
抜いてええええ!」

カクセッ

カク

びび

びび



「んんんんひいひいひいひいッ!
つがッ……ぐあッ……!」

「おはよう芦屋おねーちゃん
おま〇こ借りるね〜」

「へへへ、おれらの隠行を見破れなかったんだな
修行不足だね〜」

ガビィ

キィ

キィ



「ぐうッー！おぬしら…」

我をはめおったな…アア…ツッ！

おのれええ…！うあっ！ああっ！

ぐいっ

もみ♡

アッ♡

ア♡ア♡

「おねーちゃんの中すっごい気持ちいいよ」

はあ、はあ…」

もみ♡

シッ♡

シッ♡

「おっばいでけー！里の女どもとは比べ物になんねー！」

「くっ…我を謀ったところでっ。」

おぬしらはここからは出られぬぞ…!!

せいぜい、残り少ない余生を楽しむんじやなっ…!!」

たれん♡

「ん？なにいつてんのコイツ

それはこっちのセリフだったの

やろうと思えばオレらいつだって殺せるんだよ？」

おっ

きゅん♡

おっ

「おいやめろ！」

こんな極上の女を殺すなんて冗談でも言わな！」

「わかってるってーほら、
もっと腰をぐいぐい振ってよ。
たっぷり昔屋おねーちゃんの
中に出してあげるからさ……」

やらけ～

「だ、だれがおぬしらガキの言うこと、
などっ……! あぐうッ! あっ!」

「そのガキに犯されてるのは誰だよ!
まったく、これは駄が必要なかな」





「んうー？なんじゃこの量は…！あッ！こら！中に出すでない！抜くんじゃー！」

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ



「やだよ。お姉ちゃんの体気持ちいいし」
「一滴残らず注ぎ込んでやる」

「うああああああああつ……!!」

イナ

びしょびしょ

パル

びしょ

びしょ

「呪ってやる…呪ってやる…呪ってやる…！」

「ふーん。まあ呪いでもなんでもかけたら？」

これからお姉ちゃんを

持って帰って、ハメ倒すけどね」

プル

プル

アッ

ドクドク

「えへへ、いっぱい種付けするぞ！」

可愛いから壊しちゃうっても充分使えそうだね

残りほ…」

ブ
ン
ン
ン

「んぶうううううーんじゅつーんがっ！」

「背後がお留守です！」

まったく、タイツなんて履いちゃって
おかげで即ハメしにくいじゃないか

「もう何回術を使わせんだよー」

でもこれで総司おねえちゃんもゲットかー
どんだけ強くてもちのほで制圧出来るから
女ってのはちよるいなー」





「お、お尻がでかいからバックで突きやすいぞ
ハメられるために育ってきたの?」

「んっ!ぶじゅっ!じゅっ!んごっ!」

ブル

ブル



「一回おち○ぼ入っちゃったら
もうさっさとおしま
何にも抵抗出来なはずだよ」

「うわ、怖い顔してるよ
お姉ちゃんだめだよ、むりむり」

(こいつら…ッ…かみちぎってやる…!!!)

ぐわんぐわん

アッッ

アッッ

アッッ



「はあ、はあ、こいつ具合がいいよ...
やっぱり強い女を犯すのってサイコ〜」

じゅぽん
じゅぽん

「あははは、いそがしすぎだ。しっかりねらうとこやな〜いね」

「んごおっ！んごっ！じゅめるっじゅめるんん〜」

じゅぽん
じゅぽん



「へへへ、本当に為すがままって感じだね
こんなクソガキに負けて悔しくないの？」

「んぐーんぐーんぐー」

「じゅわんわんわん」

ゴボ...

ゴボ

びゅ
びゅ

びゅ

びゅるりんっ



あゝスギりした

「まあまあ、これから長い付き合いになるんだしご...
お姉ちゃん達は里で俺たちの
性処理をする家畜にしてやるから
いやー今日は大漁大漁。」

ちよぽい

「上質なま○が二つも手に入ったね！
さ、ごめや。」

ちよぽい



「…あっ…はっ…ああ…」

「ただいま、メス便器持って帰ってきたよ」

「おうー…くろろ…ちまー」



「あれ、レオお姉ちゃん元気ないね？
一体どれだけ使ったのさ」

「別に？大して使ってないよ
3〜4時間ってトコ」

ばいん

「うっ……あっ……くあっ……」

ばいん

アッ

アッ

アッ

「なに？おっぱいでセックスしたいの？
しょうがないなあ。よっこいせ」

「あ…」

「ずいぶんうまい〜」

「は〜それにしてもこいついいわー
苦労して連れてきた甲斐があったってもんだ」





「ふう……あんなに回るさかったのが今じゃこれだもん
やっと自分の役割がわかってきたのかな？
このおっぱい女」

「うああ……うううう……」

「まじにも喋れもしないのかよ
ますます家畜じゃないか」

「あー」

「あー」

「ずしょ」



「……だーっ！おっぱい揉んでるおっぱい……」

「はーっ！」

「うああ……ううう……」

はんっ

「おい！俺にかかったらどうすんだよ！」

きったねえな

おい、おっぱい女！そろそろおっぱいの中に出すぞー！」

はんっ
はんっ
まっ

まっ

びゅん
びゅん

「……だーっけりぽんぽんとおぼへいん……」

「はーい」

「……」

「おおっ！うおおっ……！おっぱいに絞り取られる……！」

「なんていう弾力感だ……」

「それじゃこっちもそろそろ膣内射精と聞くか……」

びんぽんぽん

ドクドク

ドク

びんぽん

ドク



「……………」

「あああああ……………」

「やっぱり女忍者って犯しがいのある奴らばかりだな
へへへ、次はどこに行こうかな……？」

ドッ

ドッ

ビュッ

ドッ